

はまなかの野生動物 一部をご紹介します！

浜中町には、全国的にも希少な野生動物が数多く生息しており、その保護は、本町のみならず、国や北海道により厳重に行われています。野生動物の中から、浜中町を代表する「ほ乳類」「両生類」をご紹介します。もっともっと野生動物の詳細を知りたい方は、霧多布湿原センターへ！環境や動植物を熟知するスタッフが、皆さんをお待ちしています。

| | | | |
|--|--|---|--|
| <p>トウキョウトガリネズミ VU Vu</p>  <p>世界で最も小さいほ乳類のひとつ。 日本で唯一の洞窟を掘る哺乳動物で、北海道の限られた地域に生息している。</p> | <p>ニホンウサギゴウモリ NI</p>  <p>ウサギのように長い耳は体長とほぼ同じ長さ。 食虫性でガガンボ、甲虫類などを食べる。森林、洞窟、樹洞、家屋、トンネルなどに越冬する。</p> | <p>エゾリス DD Dd</p>  <p>主に樹上で生活するが地上にも降りる。 木の葉のほかに昆虫、キノコなども食べる。秋に食物を貯蓄して冬眠はしない。</p> | <p>エゾシマリス DD Dd</p>  <p>主に地上で活動するが木にも登る。 植物の種子や芽、昆虫などを食べる。冬は地中の巣穴で冬眠する。</p> |
| <p>エゾモモンガ</p>  <p>夜行性で樹上で活動する。飛膜を使って樹間を滑空する。 植物の葉や種子、果実、花などを食べる。冬は数頭が同じ樹洞で生活する。</p> | <p>エゾキウサギ</p>  <p>植物の葉や茎、芽などを食べ、冬季は草の根や樹皮も食べる。 体毛は夏が茶色、冬は白色に変化する。</p> | <p>エゾヒグマ 日本最大の陸上ほ乳類。</p>  <p>雑食性で果実や茎、葉などのほか、サケなどの魚や昆虫なども食べる。冬は冬眠する。</p> | <p>ゼニガタアザラシ NT</p>  <p>北海道東部沿岸から樺太にかけて分布。同じ岩礁を周年利用し定着性が高い。 かつては肉や毛皮を利用するために乱獲され絶滅危惧種になっていたが2015年9月に絶滅危惧種から外れた。</p> |
| <p>ゴマファアザラシ Lp 夏期定着個体群</p>  <p>斑点模様の特徴。北海道のゴマファアザラシの多くは淡水と共に移動・回遊する。 春になると北上するゴマファアザラシが多いが、北海道に留まるものもいる。</p> | <p>ラッコ CR NI</p>  <p>主食は貝や甲殻類などの海底の生物で、動きの速い魚やクコイカ・ヒトデ、魚卵も食べる。 1日に体重の20〜30%程度の量を食べる。</p> | <p>エゾサンショウウオ DD N</p>  <p>成体はミミズ、クモ類、昆虫等を食べる。 北海道に分布。平地から山地にかけての沼沢地の周辺に生息している。 幼生はプランクトンや腐食質等を食べる。共食いもする。</p> | <p>エゾアカガエル 北海道に広く分布するアカガエル。全体にぼつとした感じの体型。</p>  <p>平野部を中心に草むらや林床で見られる。繁殖期以外は水辺から離れて暮らす。</p> |

保護・保全に関する指定について(掲載種のみ)

| | |
|------------|-------------------|
| CR 絶滅危惧IA類 | Vu 絶滅危惧種 |
| VU 絶滅危惧II類 | NI 準絶滅危惧 |
| NT 準絶滅危惧 | Dd 情報不足 |
| DD 情報不足 | N 留意 |
| N 留意 | Lp 絶滅のおそれのある地域個体群 |

※環境省及び北海道レッドリスト記載情報は、2024年2月現在のものです。



道路脇の林に注意!
エゾシカは急に飛び出します!
北海道ではエゾシカとの衝突事故が多発しており、平成29年の発生件数に比べて約2倍に増加しています。群れで行動するエゾシカは、早朝・夕方への飛び出しが多く、1頭見かけたら2頭目に注意! アスファルト道路上で立ち止まったり、滑って転ぶこともあるので、まずは車のスピードダウンを。

写真家/NPO法人エトピリカ基金 理事長 片岡 義廣さん

ラッコを年間350日以上観察
憧れの海鳥エトピリカを追って1985年に家族で霧多布へ移住しました。ラッコは2012年から毎年見るようになりましたが、すぐに姿を消してしまいました。2016年、海鳥の観察中に3頭のラッコが岬に棲みついた感触があり、海鳥の調査活動と併せて2017年から年間を通してラッコも調査しています。近年、ラッコ目当ての観光客やカメラマンが増え、一部に好ましくない行為も見られたので町と相談し、ラッコを脅かさずに楽しんでもらうためのガイドラインを作成し、看板やリーフレットで呼びかけています。

ラッコウォッチングのルールを守ろう
ラッコは人影や船の動きに敏感に反応したり、ドローンの飛行音や大声を嫌って逃げます。湯沸岬周辺で見かける子育て中の母ラッコは、ことのほか外敵を気にします。神経質で警戒心の強いラッコが、湯沸岬周辺を安全な場所でないかと判断すると、ラッコは姿を消してしまうかもしれません。

双眼鏡の持参をオススメします!

参考文献: 霧多布湿原生きものリスト2018(NPO法人霧多布湿原シオナルトラスト) エゾシカとの交通事故防止について(北海道環境生活部自然環境局) エゾシカ衝突事故マップ(国土交通省北海道開発局)

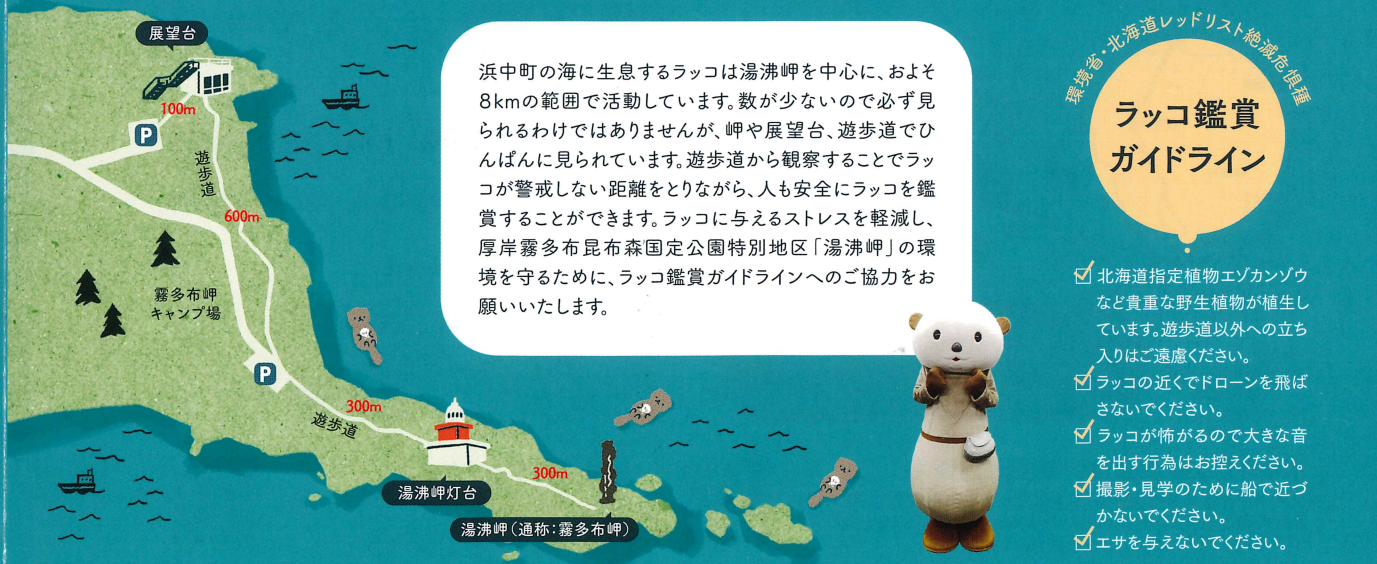
ラッコと産業の共存・共生をめざして

ラッコはかつて、北海道東部、千島列島からアラスカ、カリフォルニアにかけて連続的に生息していました。しかし、毛皮目的に乱獲され、1700〜1800年代にかけて絶滅寸前まで減少し、その数は激減します。これを受け、世界の潮流は保護へと傾き、日本では1912年に鱧虎胆肭獣(らっこおとせい)猟獲取締法で捕獲を禁じる法律が成立。また、1975年に発効したワシントン条約では、国際取引も規制されましたが、1989年、アラスカ州沖で起きたタンカー原油流出事故で、推定3000匹ものラッコが死にました。その後、国際自然保護連合IUCNにより、2000年、ラッコは絶滅危惧種の中で最も絶滅危険性の高い「近絶滅種」に指定され、今日に至っています。ラッコの個体数は、その国際的な保護政策により徐々に回復しつつあるものの、1日に体重の2〜3割に達する量の主食とする二枚貝・カニ・ウニ・アビ・ツブなどを食べることから、漁業者にとって害獣となる恐れがあります。ラッコの保護と漁業被害という軋轢を解決するためには、未だに明らかになっていないことも多いラッコの生態、特に捕食行動を明らかにし、ラッコと人間の共生を図る政策が課題となっています。

浜中町のラッコは3亜種のうち...
2014年からユリ島・モクリ島(根室市)で繁殖が確認され、次の繁殖地として浜中町へやってきたラッコは、アジアラッコ(チシマラッコ)です。

ラッコの生態・特徴

- 指の間に水かきが発達している。
- 鼠布などの海藻を身体に巻きつけ、流されないよう身体を固定し、睡眠したり、食事、はらる。
- 1回1回頭産(くまれば2頭)。
- 尾は舵(か)の役割をするために、体長の半分くらいの長さで平たい。
- 腹部の毛皮はほ乳類の中で最も密度が高く、下毛の間に空気をためて保温する。



浜中町の海に生息するラッコは湯沸岬を中心に、およそ8kmの範囲で活動しています。数が少ないので必ず見られるわけではありませんが、岬や展望台、遊歩道でひんぱんに見られています。遊歩道から観察することでラッコが警戒しない距離をとりながら、人も安全にラッコを鑑賞することができます。ラッコに与えるストレスを軽減し、厚岸霧多布昆布森国定公園特別地区「湯沸岬」の環境を守るために、ラッコ鑑賞ガイドラインへのご協力をお願いいたします。

ラッコ鑑賞ガイドライン

- 北海道指定植物エゾカンゾウなど貴重な野生植物が植生しています。遊歩道以外への立ち入りはご遠慮ください。
- ラッコの近くでドローンを飛ばさないでください。
- ラッコが怖がるので大きな音を出す行為はお控えください。
- 撮影・見学のために船で近づかないでください。
- エサを与えないでください。